

「正しい人権意識を持ち、差別や偏見を解消するために努力する生徒の育成」

さいたま市立原山中学校

1 はじめに

「人権意識に関するアンケート」から、本校の生徒は、「いじめや仲間はずれはいけない」ということは知識の上では理解しているが、「いじめや仲間はずれは絶対にしない、見逃さない」という積極的な姿勢に乏しいことが明らかになった。そこで、本主題を設定し人権教育に取り組んだ。

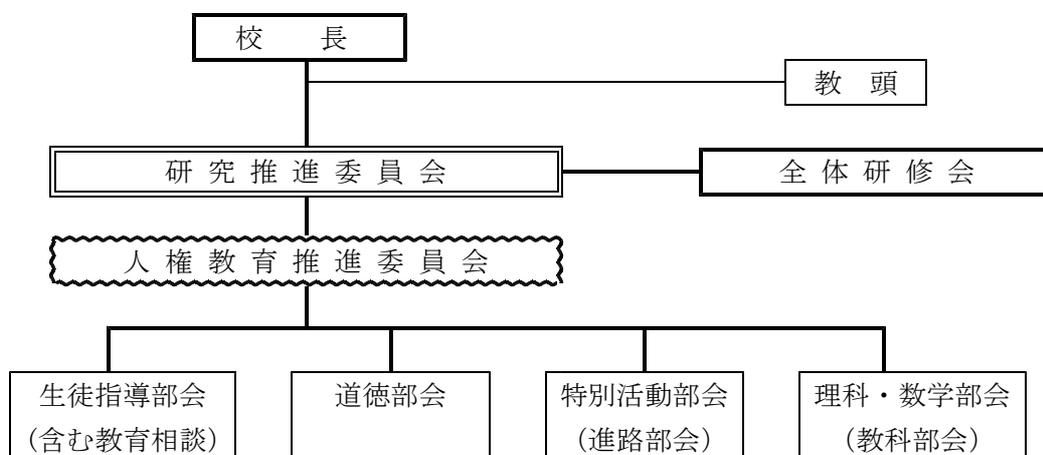
2 主な取り組みと授業実践

毎年実施している人権作文、人権標語、特別支援学級との交流に加え、人権教育講演会の開催、前述の「人権意識に関するアンケート結果を教材とした学級での話し合い活動」を、本年度全学年全学級で取り組んだ。こうした取り組みを経て、さらに人権意識を磨き、実践力を高めるために、研究発表会で授業実践を行った。

3 人権教育推進の具体的な取り組み

- (1) 人権教育を推進するため、全体計画や各教科、領域の年間計画から人権教育的内容を重点化し、年間計画を作成した。
- (2) 社会科、道徳の時間、学級活動の時間を中心に人権に関わる内容を学習し、豊かな人間性を醸成した。
- (3) 人権作文・人権標語に全校生徒が取り組み、全校集会で発表することで、生徒の人権意識が高まった。
- (4) 生徒の現状と変容を把握するために、人権意識に関するアンケートを実施した。結果は学級指導を通して、生徒の人権意識の変容に生かした。
- (5) 人権月間の取り組みとして、人権教育講演会を実施し、障害のある人への適切な支援、障害のある人との共生に関する理解を深めた。
- (6) ボランティア活動（お祭り、清掃等）や、朝のあいさつ運動を通して人権感覚を磨いた。
- (7) 特別支援学級との積極的な交流の中から、ともに生きる態度、行動を身につけた。

4 人権教育推進組織



5 年間活動計画

1 学期

- ・人権教育推進組織作り
- ・人権教育全体計画の作成
- ・人権教育推進計画の作成
- ・人権教育年間計画の作成（各教科・領域）
- ・人権作文、人権標語への取り組み
- ・人権教育全体研修会
講師 さいたま市立河合小学校 教頭 駒宮 寿夫 様
- ・人権意識に関するアンケート（1回目）



[人権教育全体研修会]

夏休み

- ・人権教育全体研修会
人権教育VTR「この空の下で」視聴
- ・夏祭りボランティア
- ・宇宙科学館サイエンスボランティア
- ・公民館主催パソコンボランティア
- ・5 days 体験事業
- ・清掃活動ボランティア



[5 days 体験事業]

2 学期

- ・人権作文作品発表会（10月）
- ・人権に関わる校長講話
- ・人権教育の授業実践（指導案を資料として掲載する）
- ・人権教育講演会（11月1日）
講師 星野 有史 様
演題 「盲導犬マリアと歩む私の人生」
- ・人権意識に関するアンケート（2回目）
- ・8組とビーチボールバレーをやろう。
1年 特別活動・生活単元授業、 2年 道徳、 3年 社会科(公民的分野)
- ・原山中学校人権月間（12月）



[人権教育講演会]

3 学期

- ・生活を見直し、新たな気持ちで人間関係を築こう。
- ・8組の劇を観よう。
- ・1年間を振り返ろう。
- ・人権教育についての反省と課題(学校評価)

6 人権教育発表会での授業実践要約

(1) 第1学年 特別活動 生活単元学習

1年4組では「ビーチボールバレーを通して、特別支援学級との親交を深めよう」、8組では「通常の学級とゲームをやって楽しもう」を主題にビーチボールバレーを公開した。

特別支援学級の生徒4グループと1年4組の6つの生活班の総当たり形式で行った。当初は、「8組の生徒に手加減した方がいいの？」と質問していた生徒が、ゲームでは全力であたらないと8組に勝てないと分かり、汗を流し必死でボールを追っていた。「8組の生徒と楽しくビーチボールバレーができたので良かった。交流も深められた。」「8組の生徒と握手もしたし、仲良くできた。」の感想から、交流のねらいも達成できた。



交流学習

<感想>

○みんなで必死にボールを追いかけて、成功したら喜んで、失敗したら励まし合って。8組さんのプレーに拍手したときもあります。こんなに体を動かして、楽しいと思ったのは久しぶりでした。

○8組とは話したことがあまりなく、接したことも少ししかなかったけど、ビーチボールバレーを通して少しでも仲良くなれたので良かったです。今度はほかのことで勝負したいです。

(2) 第2学年 道徳



道徳の授業

2年4組では、「お互いを肯定的に理解し、自他尊重の精神を養う」という、人権教育の基盤である人間関係づくりをねらいとした。「人間であることの美しさ」(『あかつき』より)を資料とし、授業公開した。「死の危険をおかしてまでゴールを目指すべきだったのか」の発問では、自分とは違う考えにも耳を傾け、意見を聞くことができ、互いの自分らしさを認めることができた。また、黒板に貼った発問掲示がはがれそうになったのを、すかさず、最前列の生徒が支えたのは、日頃の人間関係づくりの成果だと指導者の講評をいただいた。

(3) 第3学年 社会科(公民的分野)

3年4組では、「社会保障と国民の福祉」を公開した。話し合い活動に生徒は意欲的に参加し、高齢者の不安な思いや願いを知り、自分自身ができることを考えることができた。新聞記事を使い、話題を身近なものとし、すべての人々が共生できる社会を築くために何ができるのか、自分の問題として考えることができた。



社会科の授業

7 各部会のねらいと取り組み

- (1) 生徒指導部会「地域の一員として、ルールやマナーを守り、礼を尽くせる生徒の育成」
(含む教育相談)
- ・あいさつ運動（学期始め10日間）
 - ・夏祭りへの参加（太田窪祭り、前地夏祭り、仲本夏祭り、本太夏祭り）
- (2) 道徳部会「人との関わり方・生き方について意欲的に学び、道徳的实践力を育成する」
- ・人権を視野に入れた資料を発掘し、指導案検討を繰り返し行った。
 - ・「感謝・思いやり」の心の育成
- (3) 特別活動部会「働くことへの関心・意欲の高揚と学習意欲の向上」
- ・5 days チャレンジへの取り組み
 - ・地域清掃ボランティア活動への参加
 - ・地域公民館主催「パソコン講座」への参加
- (4) 理科・数学部会「楽しくわかりやすい授業から、心の教育の推進を図る」
- ・中学生による、小学校への出前授業
 - ・宇宙科学館のサイエンスボランティア

8 平成19年度 原山中学校人権教育まとめ

(1) 各部会の成果と課題

部会	成 果	課 題
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を行ったことにより、以前より、あいさつをする生徒が増えた。また、運動を行ったことにより、あいさつの大切さが分かってきた生徒が増えた。 ・お祭りボランティアに自主的に参加する生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んであいさつを行うという点では課題である。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・部会メンバーで、人権に関する資料を発掘し、指導案検討を重ねることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業において、ともに考えていく時間を確保すべきだった。 ・資料の選択・利用についてももう少し話し合ったほうがよかった。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への参加や校外学習への取り組み、また、社会体験事業等の活動を通して、自分の考えを持ち、他者とのコミュニケーションを図りながら行動することへの意識が高まってきた。体育祭においては、通常学級と特別支援学級の生徒が交流を深めることにより、思いやる気持ちを持ちながら、活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな人との出会いや関わりを通して、自分に対する自信や将来の可能性、やればできるという意識をさらに高めるための機会を設定することが求められる。多くの生徒が、無理なく参加できるようにすることで、互いに認め合い、共に生きるという心を育てたい。

<p>理数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校への数学（算数）、理科の出前授業、ボランティア活動等を通して、地域の中で顔見知り生まれ、小学生が本校に入学後も、「あの時はお世話になりました」や「先生の授業楽しかったよ」の声をかけられ、小学生、中学生、教員の人間関係づくりが進められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者だけの出前授業から、学年全体の通常授業への出前授業へ発展させていきたい。 ・授業終了後、小学生と中学生があいさつやお礼を交わす、コミュニケーションカードの作成を深め、地域でのより良い人間関係を築きたい。
--	--

(2) 人権教育全般の成果と課題

<成果>

- アンケート調査を通して、生徒の人権意識を把握し、これを基に実践的な研究を推進することができた。
- 人権意識育成の視点を「いじめ」に焦点化することで、生徒は課題を共有化し、いじめについての理解を深めることができた。
- 教員間で指導案を共有化し、組織的・協力的に取り組むことができた。こうした教員の姿勢が生徒に「いじめ」問題を真摯に考えさせる姿勢を育成できた。

<課題>

- △見て見ぬふりもいじめだと認識した生徒が増え、「いじめ」問題への理解は深まった。今後は、解消への実践力をつけていきたい。
- △身近な問題として「いじめ」を取り上げたが、今後は、さらに幅広い視点での人権教育を推進していきたい。